

第1回甲斐市総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成30年11月1日（木）午後4時00分
- 2 場 所 甲斐市役所 新館2階 教育委員会会議室
- 3 開 会 午後4時00分
- 4 出席者 保坂武市長 生山勝教育長
新海宏子職務代理者 柳本博美委員
中込正久委員 長田明美委員
- 5 傍聴人 なし
- 6 事務局 三澤宏教育部長 丸山英資秘書政策課長
加藤文雄教育総務課長 内藤和彦学校教育課長
小山田拓也学校教育指導監 大木康総合政策係長
名取藤吾教育総務係長 柴崎唯教育総務係員
- 7 市長あいさつ
- 8 教育長あいさつ
- 9 議題
 - (1) 事業の成果について
 - ① 小中学校へのエアコン設置事業について
利用状況、評価（評判）、問題点、改善点
 - ② 漢字ハンカチ配布事業、並びに教材の公費支援について
実施状況、評価（評判）、問題点、改善点
 - (2) 学校訪問を終えての現状と課題について
～特別支援教育等の充実について～
 - (3) 子どもの貧困について

10 その他

11 閉 会 午後5時00分

○開 会

事務局 開会を宣する。

○市長あいさつ

市 長 皆様、こんにちは。

本日は、お忙しい中、平成30年度第1回総合教育会議に、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

教育委員の皆様には、平素より甲斐市の教育行政の推進に、大変ご尽力をいただいております。心から感謝申し上げます。

この総合教育会議につきましては、今年度も、これまでと同様、首長と教育委員会が十分に意思疎通を図り、地域の教育課題、あるべき姿を共有し、様々な調整・協議ができるよう進めて参りたいと考えております。

さて、昨年度の総合教育会議では、第1回目に、学力向上に向けての甲斐市16校の取り組みについて、不登校・いじめの現状と対策について、第2回目で、子どもの生活アンケートの結果について、市内小学校1年生、新入学児童へのハンカチ及びドリルの配布について等、ご意見をいただくことができました。

本日の議題は、エアコン設置と漢字ハンカチ配布、教材の公費支援に関する「事業の成果について」、「学校訪問を終えての現状と課題について」、「子どもの貧困について」でございます。

事業の成果につきましては、各校からの評価や問題点、改善点について、現場からの声に基づき、議論を深めたいと考えております。また、他の2件につきましても重要な教育課題の一つでありますので、効果的な取り組みなどについて、ご意見をいただきたいと思います。

限られた時間ではございますが、是非、活発なご論議をいただき、有

意義な会議となりますようご協力をお願い申し上げまして、あいさつとさせていただきます。よろしく願いいたします。

○教育長あいさつ

教育長

皆様、改めまして こんにちは。一言あいさつを申し上げます。

本日は、市長主催による平成30年度 第1回総合教育会議が開催され、教育委員会といたしましては、大変意義深いものと考えるとともに、有難く思っております。

市長におかれましては、10月10日、竜王小学校で行われた「やはたいぬくん こどもあいさつ運動 ～字をおぼえようキャンペーン～」にご出席をいただきまして、漢字ハンカチ2枚を小学1年生にプレゼントしていただきました。また、やはたいぬくんと子どもたちがふれあう中、あいさつをかわしながら「字をおぼえよう」・「字をきれいに書こう」などと子どもたちを激励していただき有難うございました。

すでに4校で実施し、11月中には残りの7校も終わる予定で、教育委員も近くの小学校の「字をおぼえようキャンペーン」に参加し、子どもたちと一緒にふれあっています。

さて、本日の議題の一つの「小中学校へのエアコン設置事業」であります。本市の財政状況の厳しい中、市長は子どもたちのことを最優先に考えていただき、竜王・敷島地区の13の小中学校に約8億2千万円かけてエアコンを整備していただきました。

過度のエアコンに頼らず丈夫な体をつくるという、従来の基本方針を堅持しつつも、今年の夏は、災害に例えられるほどの異常な暑さであり、エアコンのおかげで子どもたちは快適に勉学に励むことができました。

保護者や教職員からも今年は本当にエアコンがあって良かったという感謝の声も寄せられております。

教育委員会を代表し、改めてお礼を申しあげます。誠に有難うございました。

このたびの小学1年生が覚える漢字80字が印字されたハンカチ2枚の配布と国語教材の公費支援についても保護者から感謝の声も寄せ

られております。

また、特別の支援を要する子どもに対する学校教育支援員の複数配置や、経済的に困窮している世帯に対する就学援助費の補助単価の引き上げなど様々なご支援やご協力に対して、大変感謝しております。

本日の議題の「特別支援教育等の充実」と「子どもの貧困」は、教育委員会においても今後、取り組んでいかなければならない重要な問題であります。これらの問題を一つ一つ、協議しながら、市長と教育委員会が連携をして、教育行政の推進を図って参りたいと考えているところであります。未来を担う子どもたちは甲斐市の宝、社会の財産、地域の希望です。

本日は、甲斐市の教育行政の充実発展と「甲斐市で育ち、甲斐市を育てる人づくり」を基本理念とした創甲斐教育のさらなる推進に向け、活発で有意義な情報交換ができることをお願いし、あいさつとさせていただきます。

よろしく願いいたします。

○議題

(1) 事業の成果について

① 小中学校へのエアコン設置事業について

市長

担当からの説明をお願いします。

事務局

(資料説明)

市長

双葉地区の三校についてはまた後程議論させていただきます。なにかご意見ございますか。

委員

今年は非常に暑い年でしたが、タイムリーにエアコンを設置することができたと思います。甲斐市は全校に導入しましたが、全国的に見るとまだまだエアコンが設置されていない学校が多いようです。気候が温暖化している中で、タイミングよく設置できて本当に良かったと思います。学校訪問でも、去年と今年とで子どもの様子が大分違い、落ち着いて授業を受けているようでした。

市長

現状は温度計が28度になったらエアコンを使用しているのですが、

翌日の天気予報を確認し、校長先生などが朝学校へ着いたらエアコンを入れた方が良いですね。3階などはコンクリートが温まっていると、部屋全体が涼しくなるのに時間がかかってしまいます。朝方など冷えている間にスイッチを入れてしまった方が良いと思います。

委員 後は費用対効果についてですが、電気代について考えていければ良いと思います。

委員 やはり、7月8月は1日の使用金額が9月に比べて倍ほど高くなっていますね。ですが、これによって子どもたちが快適に授業を受けることができるのであれば、非常に大きな成果につながると思います。

教育長 夏休み期間中に甲斐っ子応援教室において支援員の方々が子どもたちに指導をしてくださっていますが、以前はエアコンが入っていなかったためなかなか集中力が上がらなかったけれど、今年は集中力が高まり有意義に過ごすことができたとおっしゃっていました。

委員 国会中継を見たところ、高知県出身の議員が高知県においてはエアコン設置後に学力がアップしたと、データで示していました。エアコンのおかげで授業に集中することができたとのことですので、甲斐市も来年には学力がアップすることを願っています。近隣の保護者の方々も喜んでいました。

委員 小学校では、昼休みや中休みに外で遊んでいた子どもたちが、教室が涼しいためチャイムの時間を守るようになったそうです。また、中学校では学園祭の取り組みなどでモザイクアートを作成するのですが、以前は窓を開けて作業をすると風で紙が飛ばされてしまうため、締めきった中で汗を垂らしながら作業をしていたのですが、今年は快適に作業することができたそうです。良い環境で作業することによって生徒同士も仲良くなり、学園祭本番も盛り上がったとおっしゃっていました。

市長 ありがとうございます。来年からはエアコンをより効果的に使用するため、3階は早めに起動するよう校長先生たちに伝えていただきたいと思います。

教育長 分かりました。

市長 双葉地区の三校の状況ですが、修理費も非常にかかってきます。国で

も補正予算等を含めて予算化したいと言っております。この機会に駆け込みで予算に入れていきたいと思っております。

委員 会議室なども子どもたちは良く使うのですが、そういったところにはエアコンは設置されないのでしょうか。順次入れていただけるとありがたいです。

教育長 会議室には設置されていないのですが、たまにしか使用されないため、当時はエアコンがある特別教室などを使用していただきたいとしておりました。

委員 学年集会などでも使用しますので、また考えていただきたいと思っております。

市長 他にご意見ございますか。よろしいですか。

一同 異議なし。

② 漢字ハンカチ配布事業、並びに教材の公費支援について

市長 担当からの説明をお願いします。

事務局 (資料説明)

市長 名前を書く欄が欲しいという学校からの意見がありましたが、既製品のタオルですので印刷する際に名前を書く範囲が限られておりました。もし、名前の欄を作るのであれば、やはたいぬくんのイラストを抜いて、下の漢字をやはたいぬくんのイラストがあった箇所へ異動し、スペースを確保して書いてもらうなどが良いでしょうか。

事務局 やはたいぬくんのイラストは子どもたちから非常に人気があり、タオルも2柄あったので、とても喜んでおります。私たちも油性ペンで名前が書けるか試したところ、にじんだりもせず上手に書けました。子どもたちもご家庭ではそのようにしているかと思っております。初めから名前欄を設けられれば良かったのですが、先ほど市長がおっしゃったように難しい状況でしたので、今後の課題となります。

市長 名前を書いても洗濯することで落ちてきてしまうかもしれませんが、その度に、書く場所を工夫して自分で書き直すということも良いことかもしれません。

委員 教科書などは名前を書く場所が指定されています。それだと何の工夫もできません。指定された場所がないと何もできないという人が多くなってきました。どこでも良いと自分で名前を書く場所を工夫させることができるので、漢字ハンカチはこのままで良いと思います。

委員 名前なら裏面にも書けると思います。

委員 親も子も周囲の人と一緒にないと不安になるということがあります。自分が皆と違うことをすると、それは個性ではなく心配になってしまいます。今回の漢字ハンカチの名前欄については、こういったことの表れではないでしょうか。

委員 だから、名前を書く場所を指定してしまうのでしょうかね。

委員 そういう習性になってしまいますね。

市長 3ヶ月くらい経って、名前を書いた字が薄くなってきたら、学校の先生から裏面へ名前を書いてみようと言っていたら良いですね。

委員 そうですね。

委員 自分で書かせることが大切ですね。

市長 自治会の運動会などに行った時に、漢字ハンカチを配っていますというPRをしていますが、3年生までのお子さんがいらっしゃる方に対して「子どもが字を書く勉強を10分間していたら、大人も嘘でもいいから鉛筆を持って一緒に字を書いているような真似をしましょう。」と伝えています。こういった10分間運動を、学校でPTA父母会があった時に普及をしていきたいと思っております。

委員 動機付けになりますね。

教育長 漢字ハンカチは市内の小学校1、2年生の子どもたちには配布しましたが、例えば市内に住んでいるおじいさんから市外に住んでいるお孫さんにプレゼントしたいという要望はありますか。

市長 ありますね。

委員 ふるさと納税なんかでも良いと思います。

市長 そうですね、ふるさと納税で企画していただいて、入学に向けて使っただけだと良いですね。ご提案をいただきありがとうございます。

(2) 学校訪問を終えての現状と課題について

事務局
教育長

(資料説明)

平成29年度決算の内、甲斐市の学校教育支援員は学校数16校に対し39名となっております。甲府市は学校数が48校に対し、支援員の数が45人となっております、いかに甲斐市が手厚く支援しているかがお分かりになるかと思えます。また、甲斐市の教育支援員の方は教員免許を取得しており、教育支援の質も非常に高くなっております。現職の教員の方々からもお褒めの言葉をいただいております。決算については1億2百万円ほどかかっており、大変なお金をかけていただいておりますが、それに見合うだけの効果を上げていきたいと考えております。

委員

年々、特別支援学級の児童生徒数は増えてきており、これからさらに増加すると予想されます。今まで十分な支援を受けられなかった子どもたちに適切な対応をすることができるよういろいろな方法で努めているのですが、甲斐市はよくやっています。学校訪問の際にも、1人や2人の少人数で先生方に見ていただいているようです。しかし、児童生徒1人に対し教師1人で対応する必要がある子どももいるので、重度の子どもに対してもまだ力を入れていただきたいと考えております。県では学級編成の基準があるので、8人を超えなければ2学級になりません。児童生徒1人でも2、3人分の支援を要する子どももいます。8人という規定に縛られず考えていく必要があると思えます。

委員

複数障がいを持っている子もいます。人数を問題にするのか、障がいを持っている数で学級を編成していくのかなど考えるべきです。そこまでしないと、個々の子どもたちに対する支援にはならないと思えます。

市長

ありがとうございました。

(3) 子どもの貧困について

事務局
市長
委員

(資料説明)

このことについてご意見、ご質問はございますか。

貧困世帯を対象とした学習支援については、親からしてみると貧困という枠の中で集められた子どもたちということが他の人に分かってし

まうことが嫌だという方もいます。どのようにしたら良いでしょうか。

事務局

今のところは県内の13市の内11市で生活保護世帯等を対象とした学習支援を行っています。先行実施している市の状況等も十分に情報収集をして、差別の目で見られることの無いよう、高校入試などで力が十分に発揮できるよう、対応を考えていきます。

委員

多くの市町村で行っているという事は、それだけ効果もあって、スムーズにいつているという事ですね。

事務局

そうですね。家庭を訪問する方法で行っている地域や、公民館などで行っている地域もあります。いろいろな地域が様々な方法が行っておりますので、私共も課題点等整理しながら対応していきたいと思ひます。

事務局

今のところ、問題点などは直接言われていません。スムーズに行っているようです。

委員

ありがとうございます。それだけ要望も強いという事ですね。

事務局

そうですね。

事務局

まだ準備段階ですので、計画が固まったところで委員の皆様には丁寧に説明をさせていただきたいと考えております。

教育長

国の補助金も頂いておりますので、活用しながら行っていきたいと思ひます。

委員

漢字ドリルも消費税が上がる対象となりますが、100万円の収入の10パーセントと、1億円の収入のそれとでは非常に違いがあります。そう考えると、この漢字ドリルも貧困対策になりますね。学校の意見でもありましたが、大変助かると思ひます。

委員

貧困の枠決めというのがよく分かりません。何を持って貧困とするのでしょうか。経済的な面で見れば金額などで決めざるを得ないと思ひます。現状では生活支援を行政からされている方々を貧困という枠組みに入れていると思うのですが、わずかな差でグレーと言われている人たちへの支援という事も含めて市の方では漢字ドリルなどで解消もしていません。

委員

年収上限額を少しでも超える世帯は対象外という事になりますね。先ほどの漢字ドリルは全員に配るので良いと思ひます。

- 委員
教育長 子どもの人数によって家族の収入も上限額が変わっています。
- 委員 相対的貧困率の対象は、平成27年度国民基礎調査では、単身者については122万円未満、二世帯では173万円未満、三世帯では211万円未満、四人世帯では244万円未満です。
- 委員 先ほども言ったように、収入がほとんど無い生活保護の認定などを受けられる人々について、貧困という枠に入るのか境目が気になります。そういう意味では、漢字ドリルを一律配るとするのは、負い目を感じずに済んで良いと思います。
- 委員 行政で使われているお金については、税金から使われているので納めている本人たちにも恩恵を受けられないとおかしいという感覚もあります。生活支援等の上限額の線引きをする難しさについては、どうしていくべきなのでしょう。
- 委員 税金の多い少ないについては、収入が多い人ほど多く収めるというのが収入の公平化の一步です。そういう意味では全員に漢字ドリルを配るとするのは良いことです。本当は貧困家庭にのみ配るのがより良いのですが、難しいですね。
- 委員 本当は税金ではなく、経済的に余裕のある家庭の人たちが基金を出していくのが良いと思います。税金を使うのが正しいやり方なのかというのは議論すべきことだと思います。
- 市長 国政でやっていただかないといけなくなりますね。福祉の関係は毎年変わっていきますので、大変です。国の予算なども考慮して、どこかの数字で線を切らないとなりません。呼びかけをしていき、理解をしていただきたいと思います。

○その他

- 市長 双葉中学校から玄関の下足を揃えて日本一の下駄箱にしようという取組が始まりました。しかし、一部の中学校では、下駄箱も既に20数年経っており壊れてきていますので、修理し、ペンキで金・銀・銅に塗り、1年の時は銅で、金になるためには真面目にならないといけませんなどとしてはどうかと話しました。ペンキはともかく下駄箱を新しくす

るにあたり、既製品ですので色がグレーと肌色の2種類しかありません。生徒会で生徒に色を選ばせて、双葉中学校も見に行かせました。2学期から玉幡中学校で新しくしまして、順に他の学校も始め、5つの学校を見たところとてもきれいになっていて驚きました。小学校や保育園も同様にやっていたので蕪崎市と北杜市にも写真を見せたところ、うちでもやっていますと言われ、不思議に思ったところ甲斐市の学校で学んだ先生方が異動先で普及させているようでした。

また、竜王北中学校で修学旅行へ行った際、全員で朝ごはんや夕ご飯を食べる時にスリッパを綺麗に並べてあったので仲居さんがとても驚いたそうです。本来であれば仲居さんがするべき仕事なのに、この学校は凄いととも言われたそうです。例え先生に言われたのだとしても、とても良いことだと思います。

委員 大谷選手がエンジェルズに行って捨てられたヒマワリの種をペットボトルへ入れて片付けているそうなのですが、それをやってしまうと片付ける仕事をしている人の仕事を奪ってしまいますよね。

委員 国が違えばまったく違うものですよ。

委員 学校を掃除するのは日本くらいのものだそうですね。

委員 そういう文化なので仕方ないですね。

事務局 (資料「保育園での取り組み状況」について説明)

市長 このようにご協力いただきまして、ひらがなに少しずつ馴染んでいただきたいと思います。山県大弐学問祭の時に書道展を行っておりますが、小学生も硬筆の部にて立派にひらがなを書いています。それぞれ優秀な作品も出ております。順次国語に集中していただきたいと思います。また、算数もそれに繋がっていきけるのではないかと夢を描いております。

話は変わりますが、塩崎駅に高さ4メートルほどのトリックアートの絵を作ります。やはたいぬくんもおよそ実物大のサイズになります。来年の2月には仕上がると思います。

以上となります。その他に何かありますか。

よろしいでしょうか。

一同 異議なし

○閉 会

事務局

閉会を宣する。

閉会時間 午後5時00分